

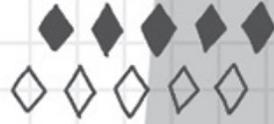
早稲田大学マスコミ研究会主催
はやみねかおる氏
講演会記念

特別企画

“あなたの”
赤い夢を探そう



CONTENTS



p.02…はじめに

p.04…ファンは「神のミソ汁」で目を覚ます

p.10…超めんどくさがりの小説挑戦記

p.12…音楽室へかけあがれ!

p.16…はやみねかおる 一年越しの蔵出しインタビュー

p.18…書評企画「あなたにとって大切なはやみね作品は？」

p.20…大学生、内藤内人になる。

p.22…マス研紹介

p.24…編集後記

ゲスト紹介 はやみねかおる

1964年、三重県生まれ。三重大学教育学部卒業。小学校教員時代に『怪盗道化師』で第30回講談社児童文学新人賞佳作を受賞しデビュー。2020年に作家デビュー30周年を迎えた。作品の軸に込められたメッセージや、個性的なキャラクター、本格的なミステリーが子どもたちの心を掴み続けている。2021年には「都会のトム&ソーヤ」シリーズ（講談社）の実写映画が公開された。また2022年に『怪盗クイーンはサーカスがお好き』（講談社）が劇場OVAアニメ化することが決定している。主な作品に「名探偵夢水清志郎」シリーズ、「虹北恭助」シリーズ（いずれも講談社）、「モナミ」シリーズ（KADOKAWA）など。



はじめに

少し、思い出してみてください。

あなたが最後に全力で走ったのは、いつですか？ あなたが最後に大声で笑ったのは？ あなたが最後に、誰かと本気でケンカしたのは？

あなたが最後に、小中学生だったあの頃を思い出したのは、いつですか？

新型コロナウイルスという脅威の前に、この二年弱でたくさんことが変化し、たくさんものが失われてきました。日々の中に当たり前にあったものや、当たり前を訪れるはずだった未来を、無くした方も多いと思います。それでも私たちは、前を向いて生きていくしかありません。誰にもぶつけられない憤りや喪失感を抱えながら、歩き続けるしかありません。

でもそんなの、難しすぎやしませんかね？

「みなさんは、楽しむことに関して一年生なんですよ」

そんな私たち大学生に、はやみね先生はおっしゃいました。これまでたくさんの子どもたちを楽しませてこられたはやみね先生は、「楽しむ」名人といっても過言ではないでしょう。そんなはやみね先生に、日々の中から楽しみを見つける方法を教えていただければ……。あれもなくなり、これもなくなり、ないない尽くしの現状を嘆きながらも、その中に楽しみを見つけて、毎日を過ごしていけるのではないのでしょうか。

二〇二〇年度早稲田祭で、早稲田大学マスコミ研究会のインタビューに答えてくださったはやみねかおる先生。二〇二一年、今度は日本全国たくさんの方々と一緒に、はやみね先生にお話を伺えることとなりました。どんなお話をお聴きできるのか、私たちマスコミ研究会もワクワクを抑えられそうにありません。

そして、このパンフレット。全国のはやみねかおる先生ファンの皆様にご協力いただき、その作品の魅力にぐっと迫っています。はたまた、音楽室（仮）で野球して、サバイバルをして、小説を書いて。はやみね先生の作品をヒントに、コロナ禍を大学生が楽しんだ記録もあります。はやみね先生の作品を読んだことがある方も、ない方も。はやみね先生の作品を通してファンの方々が抱えてきたワクワクを、私たちが感じたドキドキを、ぜひ感じてください。その先にはやみね作品と皆様との素敵な出会いがきっとあります。

あなたが最後に、小中学生だったあの頃を思い出したのは、いつですか？

この講演会で、このパンフレットで、みなさんに「あの頃」の輝きが再び訪れることでしょう。そして、みなさんの「新しい日常」が彩られ、明日を頑張る力が湧いてくることを願っています。

それでは、一緒に冒険に出かけましょう！

Are you ready?

ファンは「神のミソ汁」で

目を覚ます



座談会企画

「はやみね先生のファンで座談会をしたら、素敵なお話がたくさん聞けるのでは？」とにか
く開催したい!! いやなんなら参加したい!!!——ということ、やってみました座談会!
参加してくださったのは、全国から集まった熱き7人のファンの皆様。語り尽くせぬ愛を抱
えたファンの2時間を、ここにお届けいたします。

自己紹介

- ①名前(年齢)・職業・参加地
- ②好きなはやみね先生の作品
- ③好きなはやみね先生作品のキャラクター

- ①まいこ(15)・高校生・新潟県
- ②「都会のトム&ソーヤ」シリーズ(講談社)
- ③真野萌奈美(「モナミ」シリーズ(KADOKAWA))
- ④ろば(15)・高校生・宮城県
- ⑤『怪盗クイーン』の優雅な休暇(講談社)
- ⑥ジョーカー(「怪盗クイーン」シリーズ(講談社))
- ⑦唄水(26)・社会人・新潟県
- ⑧卒業し開かずの教室を開けるとき(名探偵夢水清志
郎事件ノート)(講談社)
- ⑨虹北恭助(「虹北恭助」シリーズ(講談社))

- ①マイ(18)・大学生・東京都
- ②「怪盗クイーン」シリーズ
- ③内藤内人(「都会のトム&ソーヤ」シリーズ)、
クイーン(「怪盗クイーン」シリーズ)
- ④ライ(13)・中学生・福岡県
- ⑤『怪盗クイーン』はサーカスが好き』
- ⑥クイーン(「怪盗クイーン」シリーズ)
- ⑦うえうえ(24)・社会人・千葉県
- ⑧「都会のトム&ソーヤ」シリーズ
- ⑨内藤内人(「都会のトム&ソーヤ」シリーズ)
- ⑩茶塩(20)・大学生・東京都
- ⑪「怪盗クイーン」シリーズ
- ⑫旗本大樹(「都会のトム&ソーヤ」シリーズ)

「はやみね先生の作品を読んだきっかけ、初めて読んだ作品は？」

◆うえうえさんの場合

うえうえさん:「都会のトム&ソーヤ」の『ぼくの家へおいで』から読み始めました。というのも、自分で初めて買った本がこれ。そこから1巻に戻るって感じてました。でも一気にこの巻から惹きこまれましたね。もう24歳で、しかも男なので、この「YA! ENTERTAINMENT」をひとり暮らしの家に持っていくってというのが、ちょっと恥ずかしいというか、なかなかなくて。唯一、最初に買って、かつ一番思い出深いこの本を、家に1冊だけ置いてあります。

◆マイさんの場合

マイ:「初めて読んだ作品をあまり覚えてなくて。たぶん『怪盗クイーン』はサーカスがお好き』だと思います。『青い鳥文庫にすっごい分厚い本があるな』ってずっと思っ

ていて。それで気になってはやみねさんの作品を読み始めました。

司会:目立ちますもんね、本棚に並んでいたら。

まいこ:図書館とかで並んでいたらびっくりしますよね。

唄水:カバーかけて読んでいたら、友達に辞書と間違えられたことがあります。

茶塩:もはや、鈍器ですよ。

一同:(笑)

◆まいこさんの場合

まいこ:たぶん小学校3年生くらいだったと思うんですけど、おそらく最初に読んだのは「怪盗クイーン」シリーズで。やっぱり小さい頃って、ビジュアルに惹かれるものじゃないですか。挿絵がすごくきれいだっただけで、それで手に取った覚えがあります。それでもうおもしろく

て! かなり絵が特徴的だったので、図書館でも見つけやすく、そこからずっと借りていました。でも本格的に、「はやみねさん」という存在を意識して本を読み始めたのは、たぶん小学校5年生くらいだったと思います。司会:そうなんですよ、K2商会先生の絵は、すごく目に飛び込んでくる……。

まいこ:美しくて。今考えると、日々の生活ではあまり見ないタイプのイメージだったので手に取ったのかなあって思います。

◆ライさんの場合

ライ:マイさんと似てたんですけど「怪盗クイーン」シリーズが、すっごい分厚いって思ってた。ちっちゃい頃って分厚いの読んだら自慢したくなるじゃないですか。一同:(笑)

ライ:だから「この長い読み切って自慢してやろう!」って思ってた。サーカスがお好き』から読み始めました。

マイ:(分厚い作品には)「読了認定証」付いてますよね。うえうえ:付いてる付いてる。

マイ:それがすっごく嬉しくて。

◆唄水さんの場合

唄水:私は結構しつかり覚えていて。小学校4年生の時に『いつも心に好奇心!名探偵夢水清志郎VSパソコン通信探偵団』(講談社)を読んだんです。実は先に、松原秀行先生の「パスワード」シリーズにはまっていました。(一同大きくうなずく)

唄水:『いつも心に好奇心!』は、松原先生とはやみね先生のおふたりの作品で1冊になっていて。今にして思えば、教授とか亜衣ちゃんたちが出ていて、あとクイーンはこの作品で初登場じゃないですか。いい出会いをしながらって思ってますけど。それで「夢水清志郎」シリーズ講

談社)と「クイーン」シリーズを同時に知ったんですね。当時はまだ「クイーン」シリーズが3冊くらいしか出てなくて。だから「夢水清志郎」シリーズから先に読んでいて、「クイーン」シリーズを読んで、っていうハマり方をしました。

◆茶塩さんの場合

茶塩:私が初めて読んだのは、「夢水清志郎」シリーズの『そして五人はいなくなる』(講談社)です。すごい王道な感じなんですけど(笑)。塾のロビーに置いてあって、アガサ・クリステイの『そして誰もいなくなった』だと勘違いして読んでたんですよ。そしたら全然違ったんですけど、めちゃくちゃおもしろくて。そこから図書館でどんどん借りてきました。

◆ろばさんの場合

ろば:私は「魔女の隠れ里名探偵夢水清志郎事件ノート」(講談社)が、小4の時に学級文庫にポンって置いてあって。探偵ものがそのちょっと前から好きだったので、気になって読んでみたらとてもおもしろくて。そこから「夢水清志郎」シリーズを図書館で片っ端から借りまくって、「怪盗クイーン」とか「マチトム」も読んで、あと「虹北恭助」とかどんどん広がっていった感じですよ。

司会:学級文庫ってやっぱり出会いありますよね。あそこにあったから読んだ本って結構ありますもんね。

唄水:図書委員だった時に、クラスに図書室の本を何冊か置いていい、みたいなのがあって。自分の好きな本を置いていました。もちろんはやみね先生の本も。「夢水清志郎」シリーズや「怪盗クイーン」を、目に入りやすいように並べて、図書室に誘導していましたね。

うえうえ:高校の時に、図書室に青い鳥文庫はもう置いてなかったんですよ。そこに無理矢理「夢水清志郎」をパー

ンって入れ込んで。もう何回も。司書の先生とも仲良くなつて、先生もはやみねかおるさんの小説を何回か読んでいたことがあったので「じゃあもう一回読んでみてくださーい」って説得して、図書室に入れました、頑張つて。

唄水：それはもう、後輩さんたち喜んでますよ。

(一同うなずく)

うえうえ：絶対読むと思うんで！

唄水：やっぱり図書館や図書室は、新しい本に出会ういいきっかけになりますよね。子どもがいきなり本屋さんで買うって、あまりないので。

マイ：本当にありがたい。でも、初めて自分で買った本ははやみね先生の作品です。

一同：へえ〜！

マイ：『怪盗クイーンと魔界の陰陽師』が600ページもあるから、一番コスパが良いなと思って。

一同：(笑)

唄水：はやみね先生は「ページ単価が最も安い作家を指しています」っておっしゃってますよね。

マイ：そうですね！

～はやみね先生の作品、ここが好きです！～

◆うえうえさんの場合

うえうえ：「非日常なんだけど、もしかしたら自分にも起こるんじゃないか」ということをはやみね先生はすごく書かれてて。普通に考えたら「ゲームを作る」とかたぶんないんですよ。でも読んでいくうちに「もしかして中学校に上がったら、本当に創也みたいになやつがいて出会うって、非日常なことができるんじゃないか」って。大人になった現在は、高校時代とか、学生時代を思い出させてくれる一つのアイテムになっています。そこが、

はやみね先生の作品に共通する魅力なのかなと。

◆ろばさんの場合

ろば：『夢水清志郎』や「マチトム」で、亜衣ちゃんや内人くんみたいな自分と年の近い子が語っていることで、より物語に入り込んでいける場所ですかね。やっぱり最初に亜衣ちゃん(の一人称)を読んだから、あそこまで自分は物語に入り込めたのかなと思いました。

司会：一人称、私も好きなんです。一方で「怪盗クイーン」は、三人称の語りであることで、おもしろさが引き立つのかなって。

まいこ：クイーンとかジョーカーが語り手じゃないからこそ、ミステリアスさというか、魅力がより引き立つと思うので。そこは、やっぱり一番びつたりなかなって思うところはあります。

ろば：でも、クイーンの語り口調もちょっと見てみたくないですか？

一同：(笑)

マイ：クイーンは時系列がバラバラで、同時進行で進んでいくイメージがあつて。だからこそ三人称で感じですかね。

◆司会者の場合

司会：はやみね先生の作品って、小学生や中学生の時に読んでもなぜか懐かしさがあつたんです。夏休みの描写とか特に、なんでこんな気持ちになるのかわかんないけど、話しながら泣いちゃうようになったり。この感じが、はやみね先生の作品の魅力かなって。

まいこ：懐かしいのは、すごくわかります！私も「都会のトム&ソーヤ」とかは最初に読んだのが小学生で、今高校生なんですけど、いつ読んでも、内人とか創也たちが自分より年下年上というのをそんなに気にしない

で読めるっていうか。そういうのは「懐かしさ」に通じるころはあるのかなって感じました、今。

司会：そうなんです。いつ読んでも友達として迎え入れてくれる感覚があるというか。

唄水：会いに行く感覚ですよ。

ろば：私、しばらくはやみね先生の本を読めていなくて。今回の座談会を機に久しぶりに読んだんですけど、それでもしばらく読んでいないっていう感じが全然なくて。小学校、中学校の時に読んでいた感情がそのままそこにある感じがして、すごく嬉しかったです。

◆茶塩さんの場合

茶塩：カンペを見ながらでもいいですか？……これって、後日ははやみね先生も見られるんですよ。

司会：もちろんです！

茶塩：すごい緊張しています……。まずは、圧倒的なワクワクです。隣の洋館に引越してきた名探偵とか、巨大飛行船とか、都会の中にある秘密基地とか、そういう要素一つひとつがもう、すごいワクワクします。あと、シリーズで世界線というキャラクターとかが共通してたりするのが、やっぱりすごい楽しいですよ。

(一同うなずく)

茶塩：あの事件ってあの作品で言っていたあれじゃないかとか、このキャラってあのキャラじゃないか、みたいな。読む度の発見が楽しいです。あとキャラクター同士の関係が、すごいやっぱりなんか、もう語彙力がないんですけど……。

一同：(笑)

茶塩：過激な思想を持っているキャラクターとかたくさんいるけど、なんかすごい愛が溢れてるじゃないですか、いろんなところに。その感じが、見ていて心が満たされ

るので、好きです。あと何より、作品が終わりに向かっているって断言されているのが、本当にたまらなく好きです。私は小学生の時に読み始めたんですけど、数年間ずっと読んできたシリーズが、いよいよ最近終末に向かっているっていうのが、たまらないです。終わってほしくないんですけど、終わりの姿を見たいっていう。

一同：わかる！

司会：まだで終わってほしくないんですよ！「絶対に終わってほしくない、この風呂敷を揚げ続けてください！」っていう気持ちなんですけど！

一同：(笑)

司会：でも、終わるならそれをちゃんと見届けたい気持ち！

(一同うなずく)

茶塩：最近本当に怖くないですか？ さらに終わりが始まっている感も、あああつてなってます。

まいこ：作品同士がますます絡まり始めたから、これなんかそうですけど『合夢の世界はスリッパする』(講談社)を取り出す。

マイ：私も持っています！

うえうえ：みんな持ってきますか？

(みんな『合夢の世界はスリッパする』を持ってくる)



▲はやみね先生の本を持つ参加者のみなさん



POINT! 主人公の気持ちは、自分の経験と照らし合わせるなどいろいろな角度から書く。

POINT! 読点の位置に気をつける。

POINT! 一文を簡潔に。

POINT! 心情を書くときは五感を想像しながら書く。

POINT! 出だしはインパクト重視。

POINT! タイトルは人の意見を取り入れる。

超めんどうぶりの小説挑戦記



はやみねかおる先生著『めんどくさがりなきみのための文章教室』（飛鳥新社）。これさえ読めば、読書感想文やレポート、小説だって書いてしまう!? というので、はやみね先生直伝の文章術を使って、小説を書いてみました。ルールはただひとつ。事前に書いた小説を、『めんどくさがりなきみのための文章教室』を経て学んだことを応用して書き直すこと。一体どんな作品になったのか——必見です。

物語要約

エイミー博士は自分の人生を予測する人工知能を開発した。彼女は過去の恋人との別れをきっかけに、物事を完全に予測したいという考えに至っていたのだ。人工知能は彼女が入力するパズルなどの簡単な問題を瞬時に解いていく。そして、最後。彼女は自らが開発した人工知能に、自分の人生の最適解を問う。人工知能は答えを出さず、彼女の考えを大きく変える言葉を残して動かなくなった。

1 「書き出しは超重要!」
どうして!と思わせるような書き出し。
👉 “やっとできた。”

2 「『比喩』で伝わる力がアップする! 直喩を使いこなそう」
👉 “あらかじめ予測されたレールの上を歩くような……”

3 「主人公やサブキャラクターたちにインタビューをする!」
ような形で過去を掘り下げる。
👉 “というのも彼には……”

4 「タイトルなんて決めなくてもいい!」
最後に決める!
👉 『分岐点』に決定!

筆者の感想

読者の感想

書き直すなかで、物語の主題を残すことが一番大変でした。また本書は文章を書くことの基本を中心に書かれていたので、それを物語を書くという作業につなげるのも難しかったです。たとえば、本書に取り上げられていた「比喩表現」というポイントを、エイミーの気持ちの表現に応用しようとしたときのこと。直喩、あるいは暗喩、はたまたあえて比喩を使わないのか、とても考えました。しかし、全体を通して見るとエイミーが自分の人生を否定される結末となりながらも、ハッピーエンドを迎えるという自分の構想は成功できたと思います。

『分岐点』は、主人公が研究を第一に考えて生きてきたことが、より印象的に描かれます。しかし、主人公は最後、その研究そのものに結果的には裏切られる形となりました。にもかかわらず、「優しさというものに会った気がした」とする結末に、深く考えさせられます。(MM)



物語への引き込まれ方が大きく違ったように思う。曖昧な表現から、一文ずつ読み進めていくにつれて、物語の解像度が徐々に上がっていく感覚が読んでいてとても楽しかった。感情表現も豊かになって、物語に深みがでているように感じた。(AW)



冒頭のエイミーのセリフが変わっていて、『分岐点』の方が主人公がどんな人間なのかということがより伝わってきた。また、その他のところでも心情の描写がより具体的になったことでスッと頭に入ってきて、読みやすくなっていた。(SU)



AFTER

やっとできた。彼女は達成感と疲労感で一杯だった。どんな難題でも入力すれば最適解を出してくれる人口知能の開発には実に二十四年の歳月がかかった。彼女の名前はエイミー、六十歳の研究者だ。彼女の専門は計算機科学であり、大学時代からずっと専門にしていた。三十代半ばのときにもっと正確なアルゴリズムを開発して物事を正確に予測すべく研究に没頭してきた。しかし、これにはもう一つの強い思いがあった。それはこの機械を自分の生活に応用すること。つまり、自分の生活をもっと正確なものにしたいというのが彼女の思いだった。実際その人生は正確というかあらかじめ予測されたレールの上を歩くようなものだった。もっとも不意の情熱に駆られて、走ったこともあったが、二十八の時だった。知り合いの紹介で社員のジョーと恋に落ちた。彼は、とてもハンサムで茶目っ気もある紳士だった。二年交際した後、彼からプロポーズを受けた。しばらく悩んだ。というのも彼には将来独立してヨーロッパで大きな事業をしたいという目標があったのだ。当の彼女は今のまま研究を続けるつもりだった。とても一緒に行くことはできない。結論はノーだった。彼はひどくショックを受けて彼女の前から立ち去った。なんとも苦い経験だった。(下略)

分岐点

BEFORE

『これからの人生は完全無欠だわ。』彼女は暗々とした気持ちでその機械の前で言った。長年の自分の努力を讀める気持ちと肩に乗っていたおもりがとれたような気持ちが同時に湧き上がった。その発明には実に二十四年の歳月を要した。彼女の名前はエイミー、計算機科学の研究者だ。とても穏和な性格で周りからとても慕われている。三十代半ばの頃、地球規模の気象を正確に予測することを目的とした人工知能の研究を始めた。しかし、これにはもう一つの目的があった。それはあらゆる物事を正確に予測すること。そう、自分の人生でさえも。彼女には暗い過去があった。二十代も終わりを迎えていた頃、知人の紹介で知り合った会社員のケビンと恋に落ちた。数年の交際を経て、彼との関係は順風満帆だった。彼女は心の奥底でこの人が運命の人だと思っていた。しかし、その思いは一瞬で崩れた。彼が交際の終了を申し出たのだ。彼はかねてからパリでビジネスをする計画を立てていたのだ。真面目な彼はそのことをエイミーに告げることができないまま時だけが過ぎていったのだ。(下略)

やさしい夢

戦況

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ひろくま	4	0	0	0	0	0	0	0	0
We 麺	0	0	0	0	0	0	0	0	0

チームひろくまが初回のリードを守り切った。1回表、満塁ホームランでチームひろくまが先制する。一方のチームWe 麺は6回裏、1死2塁から「大隈重信」でチャンスを作るが、誤答により得点ならず。その後も度々好機を迎えるも、両者得点には至らなかった。

やってみて……



対戦形式で体を動かすというのが、運動嫌いな私にとっては高校の体育以来なわけで、「誰かと協力して、本気で戦って、応援して、ってこんなに楽しかったんだ!」と思わずにはいられなかった。ゲームの準備までもを自分たちで行ったことで、楽しさ、愛着、思い出、何もかも何倍にも膨れ上がった気がする。(MM)

体育の授業では全くバットにボールが当たらなかった私でも、童心に返って楽しむことができた。印象的だったシーンはオリジナルで作った「大隈重信」に打球が当たったところで、「まさか」は起こるんだなと思った。(SU)

音楽室と野球という異質な組み合わせに奇跡を見た。高校生ぶりに動かした体は悲鳴を上げていたが、それも気にならないくらい夢中になって遊んだ。後日、体の変なところが痛んだのは秘密。全力で遊ぶことを忘れてしまった全大学生よ、外に出るのが億劫なら音楽室で野球をやるべし。(AW)

初回で会心の満塁ホームラン! このまま大量得点できるのかと思いきや、その後は全く当たりなし……。でも、ホームランの効果は絶大で守備も我ながらよかった。最初はおもしろいかどうか疑っていたが、やってみると、絵を描くところから協力してゲームをするところまでのプロセス全部がおもしろかった。またやりたい。(NS)

音楽室へ かけあがれ!



場所は音楽室。そこで行われる、熱きスポーツ「音楽室野球」アルトリコーダーのバットと紙製のボールを用いた、2対2のシンプルかつ難しい競技である。その存在は『都会のトム&ソーヤ② 乱! RUN! ラン!』で世間に示されることとなった。しかし、実際に音楽室野球をやったことがある者は、世の中にどれくらいいるだろう。これは、そんな幻のゲームに全力で挑んだ大学生たちの記録である。

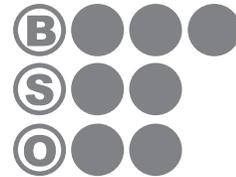
原作ルール

継ぎ目をテープで固定したアルトリコーダーのバットと、画用紙をテープでグルグル巻きにして作ったボールを使用(原作では画用紙はゴミ箱から拾ってきたものという厳しいルールがあるが、今回は感染症対策等の点から適用しなかった)。グローブは先生に見つかったとき言い訳ができなくなるので使わない。チームは二人一組で、音楽室の後ろ半分がフィールドになる。また打球の判定は全て壁にかけられた音楽家の肖像画によって行う。



マス研 オリジナルルール

- ・自作の肖像画を使用したため位置は無作為
- ・スリーストライクで交代
- ・オリジナルの肖像画を追加
- ・大隈重信↓守備側がその場で作った問題に、攻撃側が答えられたら1点
- ワセダベア→一発ゲームセット



START!

試合経過

準備

各々道具を持ち寄って準備スタート。音楽家の肖像画は自分たちで描くことに。普段あまり絵を描かないけれど、描き始めると意外と、いやかなり楽しかった。通行人の視線を感じたがそれもいいスパイス。「変になっちゃった〜」とわいわい言いながら描き終えたら、何年かぶりに触るアルトリコーダーをテープで固定し、画用紙でボールを作った。会場に移動して肖像画をセットしたら、もう気分は音楽室野球の選手。最後に、忘れてはいけないのは服装。少しでも中学生気分になるために制服や部活着に着替える。甲子園での吹奏楽部の演奏をBGMに、羞恥心を捨てたら準備はOK!

前半戦

チームひろくまは自信満々で臨んだ前半。なかなか結果がでなかった右打ちから左打ちに変えたことが功を奏し、まさかの満塁ホームラン。打った瞬間にわかる当たりだった。しかしその後は……。バットを振っても振っても空を切るばかり。チームメイトにボールは見送るよう言われたものの、どうしても振ってしまう。一方チームWe題は、全く当たりがでなかった序盤から、少しずつタイミングが合うようになってきた。その流れもチームひろくまの守備のファインプレーと好投に阻止され、またしても膠着状態へ。「後半こそは当たりを！」両者とも必死に祈った。

GOAL!

ボールが徐々にバットに当たるようになってきた。前半の試合を経て、バッターもビッチャーも成長したのだろうか。ボールがバットにあたる爽やかな音が鬱屈とした部屋に何度も響きわたる。しかし、肖像画にはゴットせずゲームは動きを見せない。6回裏になってようやくチームWe題が当てたのは、今回オリジナルルールで生まれた「大隈重信」の的。『校歌』と『紺碧の空』に『早稲田』という単語は合計何回でてるか」というチームひろくまの出題に1分間のシンキングタイムが与えられた。何としても得点につなげたいという気持ちとは裏腹に、誤答でチャンスをものにできずその回は終了。試合は動かないままゲームセットとなった。



後半戦



反省会

M: やってみてどうでした?
 A: 楽しかった!!
 M: 何が楽しかった?
 A: え、お絵かき。
 M: お絵かき!?
 A: 全部準備してやるのが楽しかった、文化祭みたいで。
 N: やっぱ試合が楽しかった! 当たったらあんなに飛ぶんだなって。
 M: 意外と当たるんだなってことにまずびっくりしたよね。
 N: 当たりは少なかつたけど……。
 A: ちゃんと成長はしてたよね、私たち。
 M: ね! 体もボールもアルトリコーダーも最後はギンギンだったけど。
 S: 全体的に、ワイワイした感じが楽しかったですね!
 M: 次回やることしたらどうしたい?
 N: ボール玉はちゃんと見逃す!
 S: 肖像画の配置をちゃんと考える! あそこが「大隈重信」じゃなければ……。
 M: でもそれは『神のミン汁』じゃん?
 S: たしかに……。
 A: めっちゃ個人的な事でもいい? その日コンタクトしてくるの忘れたんだよね。
 M: なんてこった!
 A: ちょっと音楽室野球を舐めてたね……あんなガチなスポーツだとは。
 M: 音楽室野球はガチのスポーツですよ。
 A: 次回はちゃんと音楽室でやりたいね。
 M: ちゃんと廃校を貸し切つてやろう! 廃校所有者求む!

はやみねかおるの 一年越しの 蔵出し インタビュー



はやみね先生の学生時代

※本編質問「先生はどんな学生時代を過ごされたのですか」の蔵出し

毎月の電気代は、だいたい基本料金でした。電気代動くものは、ラジカセ、部屋の蛍光灯、冷蔵庫だけでしたから。冷蔵庫は、大学2年生か3年生くらいの春に、下宿から出ていく人が捨てていったものを大家さんが「いらんか？」と買ってくれたので、手に入りました。あと、

「小学校」を選んだ理由

——中学校や高校ではなく、小学校の先生になろうと思われたのはなぜですか。

大学が数学科なので、中学校の教師だと数学の先生になっちゃうんですよ。でもそうしたら毎日数学ばかりじゃないですか。でも小学校は、子どもらと図工で何か作ったり、理科で観察したりとか、飽きる暇がないじゃないですか。給食もありますし——。そう思って小学校を選びました。

ペンネームの秘密

——はやみね先生の、ひらがなの「はやみねかおる」名義と漢字の「勇嶺薫」名義で、何か意識の違いはあるのでしょうか。

「はやみねかおる」のときは、やっぱりどうしても教師の目線っていうんですか、子どもにわかりやすいようにとか、読んでくれる子どもに「おもしろい」って思ってもらえるようになっていうのを、意識しています。教師を志す前のチンピラみたいな感覚でやっていたのが漢字かな……。そういう風には、区別しています。

一番気に入っている自分の作品は……

——ご自分の作品の中で一番気に入っている作品は何ですか。

この質問は、宮部みゆき先生から「この答えるといいよ」と教えていただいたのを、そのまま答えさせてもらいます。「今、書いているやつです」。

——ちょうどいまお書きになっているものですよ。

はい。「奇譚ルーム」の2つ目です。

——はやみね先生が一番気に入っているキャラクターをお聞きしても、今お書きになっている『奇譚ルーム②』のキャラクターになるんでしょうか。

いえ、これはですね、昔書いた「夢水清志郎」シリーズに出てくる上越警部っていう警部さんが一番気に入ってます。夢水とかはもって生まれた推理力で事件を解決しますが、上越警部は叩き上げの刑事なので「積み上げた経験の上に、今の自分があるんだ」っていう、あの生き方がかっこええなと気に入ってます。

——上越警部がウイנקが下手なのは、上越警部っぽいなって思って決められたんですか。

あ、というか、自分、ちょっと（ウイנקが）できないもので。どうしても両目閉じちゃいますね（笑）。それで、上越警部もできなくてもええかなって感じて書きました。

作家同士の交流はありますか？

——先ほど、宮部みゆき先生の名前が挙がりましたが、作家さん同士で交流などあるのでしょうか。

山の中にいるので、近所付き合いさえ考えすぎないようにしています。……答えになってないなあ。

——今の世代は、SNSで常に繋がっていることで、人間関係で困っても逃げ場がない場合があると思います。

自分は「Twitterがさっぱりわからないんでやってないんですけど」（二〇二〇年5月当時）、あれはめんどくさいだろうなあ。まあ、（逃げ場がないと感じたら）やめるのが一番いいんじゃないかなと思いますけどね。あと、LINEでもすぐに既読を付けないといけないのじゃない？ めんどくさいなあ（笑）。「Twitterでもブログとかすれば、自分と意見が違う連中とか気に入らない連中との繋がりを切ることができちゃうわけですよ。いろいろ、ややこしいですよ。やめるのが一番です。

——そうですね。

でも、そういうわけにもいかないですね。難儀ですね。自分らみたいにするという知識がないと、ほんとに楽しい。「わかりませんから」って言うときばいいにアホの真似するのどうですか。早稲田の人が無知を装ってもばれるか……。正攻法より、誤魔化しながら繋がってるのもいいんじゃないですか？

あまりないくらいです。でも、東京で宮部先生と一緒にイベントをさせてもらったことはあります。それから岐阜出身の朝井リョウ先生が、自分の本を読んでくださっていたりして、いろいろよくしてしてもらっています。作家さんとの繋がりはそれくらいですかね。

——では「この人すごいな」って感じられる作家さんはどなたかいますか。

さっき見てもらった本棚に、たくさんいます（早稲田祭二〇二〇インタビュー参照）。自分は、締め切りが迫っている時に本を読むと「こんなに楽しい本が世の中にあるんやったら、自分がわざわざ書かなくてええやんか」って思ってしまうんです。そんなすごい人たちが山のよう本棚に並んでいます。その中で特に一人挙げると言われたら、元お茶の水女子大学教授でエッセイを書かれている土屋賢二先生をですね。自分は結構、他の人の文章の特徴を掴んで真似てくるんですけど、土屋先生の文体だけは真似できないんですよ。何度やっても無理なので、そういう意味ですごいなと。

はやみね先生の観察力の秘密

——はやみね先生の観察力はどのように

養われたのでしょうか。

そういえば担当の編集さんと歩いていても、「異様な観察力」って言われます。でもね、山の中では観察力ないと冗談抜きで死にますよ。それは、小さい時の環境ですかね。今も、「おもしろいものがないかな」って探すのが癖になっています。

書籍のデジタル化について

——先生は書籍のデジタル化についてどうお考えですか。

デジタルブックは読書の一形態だと思ってますので、デジタルだろうが紙だろうが、読んでくれたら嬉しいなと——。自分の場合は、漫画はデジタルで読めるんですけど、小説はなかなか読みきれないんですよ。だけど息子達は、漫画も小説もデジタルで読むことに抵抗がないんですよ。さらに時代が進んだら、保管場所が必要になってくる紙の本は、マニアしか読まないようになってくるかもあって感じてますね。

大学生へのススメ

——サークルやバイトなどで、やはり人間関係に不安を感じている大学生も多いと思います。そんな大学生にアドバイスがありますか。

大学生に限らず、いくつになっても人間関係には悩むとは思ってます。子どもには「いっつも笑顔でおったら友達は出来るよ」とか言っていたんですけど、大学生には何て言った方がいいのかな……。あんまり気にしないでいいんじゃないかなとも思うし——。自分も人間関係で悩むときはありますから、偉そうに言えないですね。周りの人を大事にしつつ、あとは悩まず自分らしく生きとったらいいんじゃないかな……。これぐらいしか答えられないですね。周りから嫌われんように考えることも大事だけど、自分を無くしてまで好かれようとするのも、無理がありますしね……。「あんまり気にしないでいいんじゃないですか」と、深刻に

書評企画

「あなたにとって大切なはやみね作品は？」

さまざまな作品で人々を魅了してきたはやみね先生。そんなはやみね先生の作品の虜になった方々に「とっておき」の一冊を選んで、自由に語ってもらいました。すでに読んだことがある人はその魅力を再確認する、まだはやみね先生の作品を読んだことがない人は新たな一冊を手取る、そのきっかけにはいかがでしょうか。



『ぼくらの先生!』
作：はやみねかおる
講談社

永遠の宝物

私はこの本を読むまで、推理小説を怖いものだと思っていた。しかし、その考えは一気に覆された。主人公がぼつぼつと話すたび、奥さんが謎を解いていくたび、心がぼかぼかとあたたくなくなっていく。その感覚に、自分の悩みごとまで一緒にずっと浄化されていくようだった。当時小学生だった私は、これは魔法の本じゃないかと思っただけ。

今思えばあなたがちそれは間違いではなくて、あのころから今までを彩り続けてきてくれたはやみねさんは、ほんとうに、子どもたち、そして昔子どもだった大人たちにとっての、魔法使いのような存在なのだ。読むものを幸せにし、ずっと心の片隅で私を励まし続けてくれる、そんな宝物のようなこの本が、そしてはやみねかおるさんが、私はこれまでもこれからも、ずっとずっと大好きだ。

ペンネーム：ふち 年齢：16 職業：高校生



『怪盗クインからの予告状 怪盗クイン エピソード0』
作：はやみねかおる
絵：K2商会
講談社

赤い夢の問いかけ

作品を語る前に、まず一つ、きいてみたい。児童書とは、なんだろうか。

私にとって児童書は、「子供でもわかるように、人生において大切なことを教えてくれる小説」である。

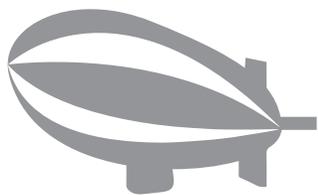


名作と呼ばれる少年漫画や少女漫画は、少年少女だけのものではないだろう。児童書も同じである。大人が読んで面白いと感じる、それこそ名作の児童書といえよう。

はやみねかおる先生が書く小説はその真骨頂だ。30年間愛され続けているのは、伊達ではない、作品の面白さがあるからだ。私は特に怪盗クインのシリーズがお気に入りであるが、今回選んだ一冊は、その中でも、私が大人にこそ読んでほしいと思った要素が詰まっている。

はやみねかおる作品は、ロマンと笑いと感動溢れるストーリーの裏に、社会的、倫理的な問題への問いかけが潜んでいると最近私は思っている。怪盗クインエピソード0は、そんな問いかけが一番わかりやすい形で表れている。

嘘だと思つて開いてほしい。赤い夢の世界からの問いかけに、あなたは笑って答えられるだろうか。



『都会のトム&ソーヤ①』
作：はやみねかおる
絵：にしけいこ
講談社

都会に隠れたワクワク

私は、『都会のトム&ソーヤ①』の扉をめくった次のページにある言葉が大好きだ。

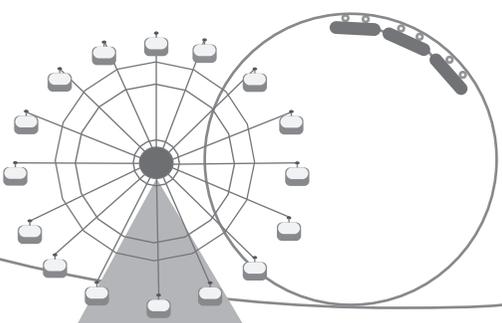
「もし、トム・ソーヤになりましたかったら、きみのまわりを見わたしてごらん。

そうすれば、いろんなものが見えてくる。そして気がつくはずだ。

ぼくたちは、いつだって、トム・ソーヤだったことに。」これを初めて読んだとき、すごく嬉しかった。ごく普通の町に暮らす私でも、あつと驚くような冒険をできるかもしれない。してもいいのかもしれない。そんな日を夢見てもいいんだよ、と優しく肯定してもらえた気がした。いつか、この退屈な日々を吹き飛ばすような「何か」が私の人生にも起こるかも！と心の底からワクワクした。

はやみねかおる先生の作品には、こういうワクワクがたくさん詰まっているから、人も惹きつけるのだと思う。何の変哲もない町や学校も、生き生きとした登場人物たちの活躍によって、キラキラと輝いて見える。自分が暮らしているこの町も、本当はもつと楽しい場所なのかもしれないと思わせてくれる。日常に隠れたワクワクを教えてください。だから、私は、はやみねかおる先生の作品が大好きだ。

ペンネーム：香川実弥 年齢：18 職業：大学生



『そして五人がいなくなる』
作：はやみねかおる
絵：村田四郎
講談社

私の大好きな名探偵さん

はやみね作品はすべて大好きなのですが、特に好きな『そして五人がいなくなる』を選びました。

世の中の名探偵は、皆優れた推理力や観察眼を持っていて、カッコいい人ばかりです。

ですが私は、夢水清志郎の『みんなが幸せになるように事件を解決する』という信念がいちばんカッコイイと思っています。

みんなが幸せになるためなら、彼は自分が世間からどう思われても構わないのです。この事件で、彼が子どもたちのことを最優先に考えていることが、謎が解けていても、子どもたちの夏休みを守るために謎解きをしなかったことが、彼の魅力のすべてを表していると思います。

この事件があったから、私達は夢水清志郎に対して絶対的な信頼を抱くことができます。

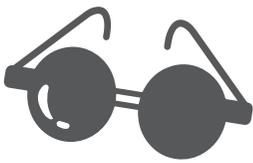
どんな事件が起こっても、教授なら大丈夫だと思えます。

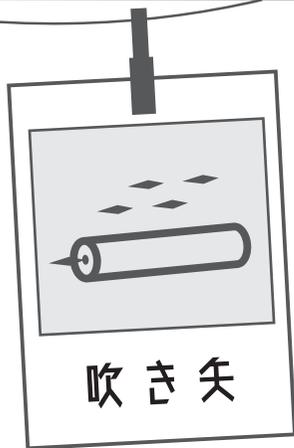
『べつに世間の人がぼくのことをなんて思つてようが関係ないよ。ぼくは、ぼく——名探偵の夢水清志郎。』

それは、世間の人が決めることじゃない。ぼくがぼくであるってことは、このぼく自身が決めることなんだ。』

本書220ページの教授の言葉です。この言葉に何度も勇気付けられました。これからもたくさん勇気を貰うと思います。

ペンネーム：なべわた 年齢：18 職業：高校生





出典：「都会のトム&ソーヤ 国ミツゾフ いコになつたら作戦終了？」
(講談社)

「内人くんがアリスちゃんを助けた(？)吹き矢を私も作りたい！」そう思った。必要なものはストロー、つまようじ、ポップコーン。この3つだけ。とりあえず100円ショップに行けば間違いないラインナップだ。キッチンコーナーでつまようじとストローを見つけた。ここである不安が頭をよぎる。

「あれ、ストロー細くない？ この細さでポップコーン入るの？」

でもきっと大丈夫。一世を風靡したタビオカブームによってタビオカ用の太いストローが売っているはず。そう思って探したもののどこにもない。しょうがない、もう1軒回ろう。

徒歩10分ほどで到着した2軒目の100円ショップにお目当ての品はあった。1番太いストローと残りの必要なものを買った。どう見てもポップコーンが大きい気がするけど気にしない。アリスちゃん救出のシチュエーションに合わせて的の風船も購入して準備万端である。

家に帰って早速作り始めようとポップコーンとストローを開封した。不安は的中。ポップコーンを砕けばストローには入る。しかしつまようじが刺さらなくなってしまうのだ。うーん、誰かポップコーンを吸えるサイズのストロー売ってる場所知りませんか？



出典：「都会のトム&ソーヤ 国ミツゾフ いコになつたら作戦終了？」
(講談社)

森の中で極限の空腹状態にあった内人くんが考案したシーフードスープ。今回は、森の中ではなくキッチンで、鍋も紙皿ではなく一人用お鍋で代用することにしました。材料は、水、酢昆布、イカせんべい、この3つだけ。これなら入手も簡単……かと思いきや、酢昆布がなかなか売っていないことが発覚。麗亜さん怒っちゃうよ……。でもなんとか入手し、レッツクッキング！

酢昆布の表面の酢と甘味料を洗い流し、水の入った鍋に入れる。火にかけて沸騰したらイカせんべいを砕き入れ、ふやけたら完成！ん？ 完成？ 早過ぎない!? しかも、香ばしくて食欲をそそるこのにおい、絶対においしい。見た目はちょっとあれだけど、絶対においしい。いざ実食。

……味は、うすめ。でも味そのものはおいしい
(イカせんべいだから間違いない)。

イカせんべいの食感にもびっくり！もちもち！これはみんなが知っているイカせんべいではない。入れるタイミングを2回に分けると、食感のバラエティーが楽しめてさらにおいしいかも。簡単だし、想像以上のおいしさで、これは一人暮らしのレパートリーによいですね。朝から活動した午後6時、この日1食目の感想でした。



「都会のトム&ソーヤ」シリーズ読者なら誰しも抱く夢。

「内藤内人になってサバイバルしてみたい！」

そんな夢を叶える企画が満を持して始動！ 都の西北、早稲田大学マスコミ研究会に集いし内藤内人候補生たちが、彼が編み出したサバイバル術に挑む。果たして彼らは内藤内人になれるのか!? はたまた……。

「マチトム」愛読者刮目せよ！これが、リアルだ！

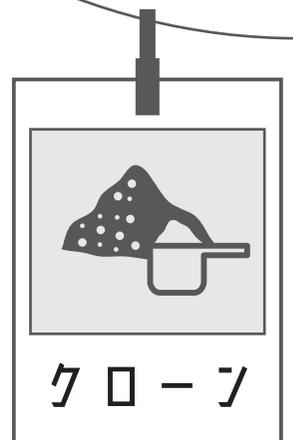
「クローンを作れる」という言葉に胸を躍らせ、足早にスーパーマーケットへ向かった。コーンスターチをかごに放り込み、鼻歌を歌いながらお会計。99円。安い、安すぎる。99円でクローンが作れるなんて信じられない！ ありがとう、コーンスターチ。ありがとう、世界。

帰宅後、底が平たい容器を用意し、水とコーンスターチを1:1の割合で混ぜる。気分はさながら科学者のよう。化学のテストで赤点をとって補修課題を出された高校時代の私に、現在の私を見せてやりたい。

コーンスターチが水に溶けたら、いよいよクローン誕生のフェーズへ。容器をスピーカーの上のせて、スイッチオン。曲はKANA-BOONの『クローン』。軽快なイントロにノッているかのように水面が揺れ始める。いよいよか……？ 期待してしばらく水面を見つめた。しかし、そこから何か新たな固体が浮き出てくる様子は見られない。あれ？ とスピーカーの音量をできる限り上げた。が、変化なし。私は膝から崩れ落ちた。

失敗の原因はどうやらスピーカーにあるようだ。調べてみると、周波数が足りていない可能性が浮上した。

やはりクローンなんてそう簡単に作れないのかもしれない……。



出典：「都会のトム&ソーヤ 国ミツゾフ いコになつたら作戦終了？」
(講談社)



マスコミ研究会の一年

企画会議から完成するまで全てオンラインで実施。ワセキチの「理論と実践」がリモートでも変わらず継続中！

1 企画会議

ワセキチに載せる企画を決定します。企画立案者がプレゼンを行い、おもしろいと思った企画に投票！

2 記事執筆

自分のやりたい企画に入り、話し合いを重ねながら記事を執筆していきます。

3 校閲

各学期の終盤に、分科会の皆に記事を校閲してもらう「全体校閲」という場があります。

4 編集

そうして完成した記事をもとに、編集員がワセキチを構成するページをデザインします。

5 入稿

度重なるチェックを経て、マス研皆の努力が詰まったデータを業者に入稿。

6 完成

自分の書いた記事、デザインしたページの入ったワセキチを手にする瞬間です。感無量！

オンラインによる説明会・懇親会も実施中！いつでも入会を受け付けています。

Social

記者やジャーナリストが扱うような、社会現象や社会問題を企画として取り上げ、大学生ならではの立場から、研究・取材を行っています。新聞やテレビなどのマスメディアを対象とした取材も多く、もっとも「マスコミ研究」に取り組める分科会です。メンバー同士で議論を重ね、丁寧に取材した上で記事を練り上げていきます。

Variety

フリーマガジン『ワセキチ』を手にとっていただいた方に、ささやかな笑いと癒しを提供するため、自分たちの興味・関心に基づいた企画を展開しています。企画では、身近なテーマから頭のネジが飛んでしまっているものまで、ありとあらゆる活動を自由に行い、文章に昇華させています。

What's マスコミ研究会？

私たち早稲田大学マスコミ研究会は1967年創立以来、今年で54年目を迎える早稲田大学公認の出版サークルです。会員は現在約35名。普段の活動ではノー Journals のフリーマガジン『ワセキチ』を作成し、年に2回発行しています。また早稲田祭では毎年著名人をお呼びし講演会やインタビューを企画しています。このように「理論と実践」をモットーに活動を展開しているのが私たちマスコミ研究会です。

Design

ソーシャル・リサーチとバラエティ、モノローグが作った記事を、パソコンを使って紙面のデザインを構想し、『ワセキチ』を完成させます。多くの会員が初心者としてはじめるので、通常活動では、講座を開いて一から丁寧に学んでいき、実際に記事を担当できるまでに、技術を磨いていきます。

Monologue

文章力を高めるために、週に一度、決められたテーマに沿って書いてきた記事を読み合い、意見交換をします。「好きな本」や「一つしか本当のことを言えない自己紹介」など、思わずクスリと笑ってしまうものから、大学生だからこそその視点で考える社会まで、多彩な内容を扱っています。作成した原稿は、ブログ上で順次公開します。お楽しみに!!

発行人より

本日はマスコミ研究会主催「はやみねかおる氏特別企画『あなたの、赤い夢を探そう』」にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。昨年は新型コロナウイルスにより中止となったはやみねかおる先生の講演会を開催できたことを嬉しく思います。

最後に、はやみねかおる先生、協力して下さいました講談社の方々、早稲田祭運営の方々、そして講演会に足を運んで下さった皆様はこの場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

早稲田祭担当より

本企画にご参加いただき、ありがとうございます。当初はオンラインと対面の併用で講演会を行っていただく予定でしたが、早稲田祭の完全オンライン開催に伴い、Youtube Liveで講演会を配信することにいたしました。ご来場を予定して下さった皆さま、大変申し訳ございません。オンライン開催となりましたが、参加者の皆さまとはやみね先生の触れ合いの場が実現でき、マスコミ研究会一同大変嬉しく思っております。この企画で、はやみね先生と皆さまの思い出を彩ることができていたら幸いです。

最後に、先行き不透明な講義会を引き受けてくださったはやみねかおる先生、そして早稲田祭運営スタッフの皆さま、この度は誠にありがとうございました。

早稲田祭ゲスト・パンフレット担当より

はやみねかおる先生には、もともと二〇二〇年度講演会ゲストとして出演を依頼し、ご快諾をいただいております。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が続く状況を受け、講演会の開催を断念。そんななか、はやみね先生は「二〇二一年度こそ講演会をやりましょう」と言ってくれました。「音楽室野球を大学生が本気でやってみる」というアイデアも、はやみね先生が提案してくださったのです。どんなにお忙しい中でも、約二年間もの間、我々マスコミ研究会に対して常に優しく、お気遣いくださったはやみね先生。本当にありがとうございます。

今、一年越しにこの日を迎えられたことが、心の底から嬉しいです。それもすべて、皆様のお力添えがあつたからに他なりません。マス研のみんな、企画にご応募くださった皆様、運営スタッフの皆様をはじめ、今日まで支えてくださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。

願わくは二〇二一年度講演会ではやみね先生のメッセージが、そしてパンフレットに込めた私たちの「やりたい」と「楽しい」が、全国のたくさんの方々が届きますように。新型コロナウイルス流行が少しでも早く収束し、みんなで力一杯笑い合える日が来ることを、心よりお祈りいたします。

編集後記

メンバー

3年

石川愛里 石川珠緒* 香川満里 亀山美玲*
権文美玲奈* 児島恵美 子安結貴 坂本つつみ
佐藤聖 土屋花音 中島大吾 本田花* 三浦唯一
森真以子* 山床啓太 吉岡美奈 渡邊文美*

2年

安藤比奈 石坂朋也 岩崎穂来 岩崎光 岩崎舞桜
上田想乃* 太田健人 小西葉月 白石尚也*
谷口宗郁 福田倫子 水谷太紀* 家根新* 山本純也

1年

安東基 加藤勇人 河村すず 來住果林 北美悠里
佐藤廉大 趙浩慶 坪井心優 西村夏 松田虎太郎
森田修平* 山本倫平 頼久響子 渡邊あい

*パンフレット担当者

HP



Twitter



発行人 石坂朋也
編集人 水谷太紀
早稲田大学マスコミ研究会
HP waseda-massken.com
Twitter @w_massken